

平成25年度「英語教育実施状況調査」の結果概要（公立小学校）

1. 英語を使用する機会の増加について　　《「提言3」に関すること》

(1) 公立小学校における外国語活動等の授業で、外国語指導助手（ALT）を授業で活用する時数については、平成22年度は54.4％、平成24年度は56.2％、平成25年度（計画）では57.9％となっており、増加傾向にある。

(2) 公立小学校における外国語活動等の授業で活用するために雇用等しているALTの総数は7,735人。ALT総数に占める割合は、JETプログラムによるALTが26.4％と最も多く、次いで、JETプログラム以外で自治体が独自に直接雇用しているALTが22.5％、請負契約によるALTが21.4％、その他のALT（地域人材のネイティブ・スピーカーなど）が17.0％、派遣契約によるALTが12.7％となっている。

2. 英語担当教員の英語力・指導力、学校・地域における戦略的な英語教育改善について　　《「提言4」に関すること》

小学校教員（小学校に所属し、授業を担当している者。）のうち、英検準1級以上又はTOEFLのPBT 550点以上、CBT 213点以上、iBT 80点以上又はTOEIC 730点以上を取得している者は、全体の0.8％、当該試験の受験経験のある者は、全体の31.0％となっている。